リレートーク279

子どもたちの個性や自主性を伸ばすきっかけ作りを

下條真輝さん
田人地区地域おこし協力隊。今年で２年目を迎える。田人地区の自然と教育を掛け合わせた地域活性化に取り組んでいる。

Q　地域おこし協力隊として活動しようと考えたきっかけは何ですか。

子ども向けの習い事の先生をしていたころから、カリキュラム通りの指導方法に疑問を感じていました。そんな時、鮫川村のキッズキャンプに支援員として参加し、子どもの自主性を尊重した体験学習を目の当たりにすることで、一人一人の個性を伸ばし、育てていくような活動がしたいと強く考えるようになり、子どもの預かりを行うコミュニティハウス「ＨＩＴＯ（ひと）－ＴＡＢＩ（たび）」のある田人地域おこし協力隊に興味を持ったのがきっかけです。ＨＩＴＯ－ＴＡＢＩでは、放課後の子どもたちの預かりの場や地元産の食材を使用した料理を提供するカフェ、移住相談窓口の運営を行っています。

Q　その他の活動についても教えてください。

田人の良さを知ってもらうイベントを開催するほか、地区内では子どもの数が少なく、高校生になるまで他地区の子どもたちとの交流が少ないことから、他地区の子どもたちを招き、地元の皆さんに教えてもらった遊びや地元食材を取り入れた交流イベントも開催しています。年内には、親子で田人にある愛宕（あたご）山を登り、川魚の薫製を楽しむイベントなども行う予定です。

Q　今後の目標を教えてください。

預かりの場では、おやつの時間に一週間分の金券を先に渡し、おやつの適量と金券のやりくりを学習するなど、子どもの思考力の向上を目的とした体験なども取り入れていきたいと考えています。また、子どもたちの体験学習の場を自然の中に作りたいです。昨年の台風による大規模な土砂崩れの発生を機に、森林や山の整備が行われていないことが原因の一つではないかと考え、対策を考えるようになりました。今後は、積極的に整備に関わりながら、自然豊かな田人を守るため、子どもたちが自然について考えられる機会を作りたいと思っています。

子どもたちには将来的に広い視野や夢を持ってもらえるよう、これからも、子どもたちと触れ合い地元の皆さんと協力しながら、田人の地域振興に携わる活動を続けていきたいです。

泉町との交流イベントで、竹で作った水鉄砲で川遊びをする子どもたち

地域の集いの場であるＨＩＴＯ－ＴＡＢＩのカフェスタッフの皆さん

絵はがきの中の「いわき」

絵はがきの種類③（炭鉱、工場、漁港、商店）

明治時代末期から大正時代にかけて、絵はがきを取り巻く状況は大きく変化していきました。いわき地方は石炭産業や漁業の近代化によって活況を呈していきます。その盛況ぶりは炭鉱をテーマとした絵はがきに数多く表現されており、それは漁業においても同様でした。

女子従業員による社内修業の様子が分かる絵はがき　〔昭和15年（1940）頃　呉羽紡績㈱錦工場発行〕

特に炭鉱においては、各社が企業ＰＲと従業員募集の観点から、自社に関する絵はがきを発行して幅広く流布させました。大手の磐城炭鉱や入山採炭は明治・大正・昭和時代に、大正時代初期に発足した古河好間炭鉱や大日本炭鉱も大正・昭和時代に、それぞれ自社で絵はがきを発行していました。これらの絵はがきには、従業員の働く姿や慰安に興じる姿、社内修業の様子などが盛り込まれています。

一方で、漁港においては漁業の盛況ぶりと併せて、町や村の様子、名所・旧跡、海岸などが絵はがきの中で紹介されています。

商店の場合は、当時有力な宣伝媒体であった新聞と比較して、各商店が独自に費用対効果を勘案して選択していたと推測でき、昭和時代初期まで、醸造元や旅館、割烹、木材店などさまざまな職種において宣伝用としての絵はがきが発行されていました。

（いわき地域学會　小宅幸一）

明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されていました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

こんにちは 市長室から ⑲

国際バルク戦略港湾「小名浜港」

いわき市長　清 水 敏 男

小名浜港は江戸時代に納付米の積み出し港として基礎が築かれ、明治時代以降は常磐炭鉱から産出する石炭の輸送基地として、戦後は臨海工業地帯の物流拠点港湾として整備が進み、昭和39年の「常磐・郡山地区」新産業都市指定を契機に、本市と共に国際貿易港として発展してきました。その後、昭和58年に小名浜港東港地区の起工、平成10年に外貿コンテナターミナルが供用開始したほか、同港を親水エリアとすべく、平成９年にいわき・ら・ら・ミュウ、平成12年にアクアマリンふくしまがオープンし、本市観光の中核を成すまでになりました。平成23年の東日本大震災では同港も甚大な被害を受けましたが、国・県の力強い後押しの下、国際バルク戦略港湾の選定を受けたほか、小名浜魚市場や小名浜マリンブリッジの供用開始、イオンモールいわき小名浜のオープンに至りました。本年10月３日には赤羽国土交通大臣や平沢復興大臣、内堀知事ご臨席の下、国際バルクターミナル供用式が盛大に開催されました。私は地元市長として「復旧と復興は別。復興は震災前よりも良くすることであり、まさに小名浜港は復興のシンボルに値する。」と関係者の皆様に感謝の言葉を述べさせていただきました。